

記録
16ミリ
カラー／20分

■企画
北九州市

スタッフ

■製作
村山英治
■脚本・演出
村山正実
■撮影
加藤和郎
村山和雄
■照明
本橋俊男
■選曲
深沢康雄

文部省特選

この映画は、美術品を見せるだけの今までの美術館でなく、絵を学ぶ教室を開いたり、説明にあたるボランティアを養成するなど、市民参加の工夫を持つ地方美術館を紹介する。住民と一体になった活動をめざす地方公共施設のひとつの指針となった作品である。



北九州市に素晴らしい美術館が誕生した。市の中央の丘陵地形を巧みに生かして、建物は丘の上から鳥の飛び立つ姿を表し、内部の階段は回廊となり周辺の風景と建築美をパノラマのように見せている。玄関ホール東側に2つの展示室があり、外光を取り入れた明るさは従来の美術館の印象を一変する。身障者などへの特別な配慮もなされ、広く市民の美術鑑賞に開かれた場になっている。団体入場者には、鑑賞に先立って学芸員の説明が行なわれ、予備知識をもって見ていくことができる。研究者向けには、アート・ライブラリーがある。館内随所にロビーがあり、休憩をかねて美術雑誌の閲覧もできる。また、休憩と軽食のとれる展望のきくレストランもある。

この美術館の誇りはその雄大な建物や所蔵作品だけではなく、利用者の市民と結びついた様々の活動にある。美術ボランティアで3人の子持ちの塚本さんは、館内で開かれた「美術ボランティア講座」を受講、解説員として週2回交替で常設展示室の作品解説にあたっている。美術好きの父の影響でこのボランティアになったという芳賀さんも仲間。こういう人々は、市民と美術館を結ぶパイプ役となり、また地域社会における美術情報の提供者としても注目されている。「土曜講座」「講演会」「絵画・工芸実技講座」「銅版画教室」等、ユニークな講座も催されている。市民の教養の場、レクリエーションの場として、その役割には大きな期待がもたれている。



建築設計：磯崎 新